

INTERVIEW

マレーシアの石油化学事業向け バイヤーズ・クレジット

日本企業の設備輸出をプロジェクトファイナンスで支援

産業ファイナンス部門 産業投資・貿易部 第2ユニット

伊藤 大介 調査役、岩織 恭平 調査役（当時）に聞く

JBICは、2019年4月、マレーシア法人Pengerang Refining Company Sdn. Bhd. (PRC) と、9億米ドル（JBIC分）を限度とするプロジェクトファイナンス（PF）ベースのバイヤーズ・クレジット（輸出金融）の貸付契約を結びました。本融資は株式会社みずほ銀行、株式会社三井住友銀行、株式会社三菱UFJ銀行等との協調融資で、民間金融機関の融資部分には株式会社日本貿易保険（NEXI）による保険が付保されます。本融資は、PRC等が建設を進めているマレーシア最大の製油所・石油化学コンプレックスにおいて、主要設備を日本企業から購入する資金に充てられます。

マレーシア、サウジアラビアによる 国家プロジェクトに貢献

本プロジェクトは、マレーシア国営石油会社 Petroliam Nasional Berhad（ペトロナス）と、サウジアラビア国営石油会社 Saudi Arabian Oil Company（サウジアラムコ）が出資する PRC 等が、マレーシアのジョホール州に石油精製能力日量 30 万バレルの製油所と、エチレン、プロピレン等の石油化学プラント（合計年産 330 万トン）から成る複合コンプレックス（RAPID）を建設・操業するものです。

「マレーシアは、産出する石油・ガスの付加価値を高めるために石油化学事業に力を入れています。特に、マレーシア最大のプラントとなる本プロジェクトは、『第 11 次マレーシア計画』の中で石油・ガス分野の中核となる国家プロジェクトに位置づけられています。一方、サウジアラムコも、サウジアラビアの国家戦略のもと世界各地でいわゆるミドルストリームやダウンストリームと言われる石油精製・石油化学事業を積極的に展開する計画を立てており、先駆的なプロジェクトとして本プロジェクトを位置づけています。

JBIC は、ペトロナス・サウジアラムコが、それぞれ日本企業との合併により行うガス田開発事業や石油化学事業等に対して支援を行った実績があります。今回は、日本企業のビジネス支援というだけでなく、両国の国営石油会社が共同で実施する国家戦略プロジェクトの支援を通じ、両国及び両社との関係を一層深める機会になりました」と、伊藤調査役は説明します。

先行案件として、 今後の案件の良い手本となるよう粘り強く交渉

2011 年に RAPID 計画が発表され、2014 年に東洋エンジニアリング株式会社がスチーム・クラッカー・コンプレックス（SCC）を受注しました。その後、サウジアラムコがプロジェクトに加わり、2018 年 1 月から具体的な契約交渉がスタートしました。

「東洋エンジニアリングより、入札に参加する際のサポートレターを要請されたところから始まりました。SCC は、スチームを使って原料の熱分解・精製を行うもので、エチレンやプロピレン等を製造する重要プラントであり、日本企業の技術力が高い分野です。

今回のプロジェクトは規模が大きいため一括受注は難しく、全体で 13 の工事契約者となりました。また、レンダーも欧州・アジアの輸出信用機関や民間金融機関が参加する国際協調融資案件として進められました。このため、シンガポールでのキックオフミーティングには、ペトロナス、サウジアラムコの両スポンサー、JBICをはじめとする他国輸出信用機関、さらに技術アドバイザー等を交えて 60 名以上が一堂に会しました。

このように工事契約者が多い事業では、全体の建設工事の進捗がポイントになります。通常のプロジェクトでは最大の懸念材料となる「完工リスク」ですが、本プロジェクトは融資交渉開始段階で 90% 以上が完成しており、リスクが発現する恐れは低く安心材料となりました。原料供給や製品販売面でも、多数実績があるペトロナス、サウジアラムコが事業主体ですから大きな問題はありませんでした。苦心したのは、ペトロナス、サウジアラムコ側が求める各種要求に、いかに対応するかでした。JBIC は最大のレンダーとして交渉の先頭に立ち、今後の良い先行事例とするためにも、粘り強く交渉を進めました」と岩織調査役は振り返ります。



交渉の法務面で活躍した Elizabeth Wood 弁護士も、「複数の輸出信用機関が参加する国際協調融資案件だったため、交渉において全機関が一枚岩である必要がある一方で、機関毎に重視する点が異なることもあり。そのような中で JBIC として確保しなけ

ればならない条件に他の機関も同調してもらいつつ、多国間の異文化交渉をまとめ上げることが一番の醍醐味でした。」と語っています。

「私たちは、シンガポール、ロンドン、東京で協議を進めるだけでなく、東洋エンジニアリング、ペトロナス、サウジアラムコの本社、現場サイト等を訪問しました。そうして事業・技術の理解を深め、他国の輸出信用機関とも密接に連携して円滑なファイナンス組成に努めました。その甲斐もあり、JBIC から厳しい要求をした際にも、最終的には『同じ船に乗る仲間』として JBIC を認め、交渉相手のペトロナス、サウジアラムコからも信頼が得られ、交渉をまとめることができました」と伊藤調査役。

こうして、2019 年 4 月の契約調印に至りました。



（Pengerang Integrated Complex サイトにて、2018 年 7 月 11 日）

日本企業のビジネス拡大に向けて

本プロジェクトは2019年中には商業生産の開始が予定されています。「今回の融資を通じて、ペトロナス、サウジアラムコとの信頼関係を一層深めることができたのが大きな収穫です。両社は、日本企業の技術力とともに、JBICの金融面での貢献を高く評価してくれました。今後、両社ともJBICの協力を期待していると語っています。

石油化学プラントのエンジニアリング分野は、他国との競争が一段と激しくなっていますが、JBICは技術的優位性・信頼性の高い日本企業のビジネス機会を拡大するために、一層支援していきたいです」と岩織調査役は今後について語ります。

伊藤調査役も「石油化学事業等の長期・巨大プロジェクトは、世界の景気や原油価格の変動、政治・政策の変化に伴うリスクが常にあるため、輸出信用機関の参画・支援が期待されています。JBICは、他国の輸出信用機関とも連携しつつ、さまざまな金融手法を活用した案件形成やリスクステイク機能等を通じて、日本企業の海外ビジネスを金融面から支援し、日本及び国際経済社会の健全な発展に一層貢献していきたいと考えています」と語っています。